

市民から見た原子力コミュニケーションに関する課題

2008.3.4 . 原子力学会SNW#7シンポジウム
パネル討論「原子力コミュニケーションのあり方を問う」

犬伏由利子

消費科学連合会・副会長



初めに（自己紹介に代えて） 消費科学連合会のご紹介

【消費科学連合会・平成18年度の運動目標】

1. 食の安全・食の自給確保のために活動しよう。
2. **エネルギー問題**をはじめ自然や社会の環境浄化のための行動を起こそう。
3. IT社会になり、情報化・カード化の時代、そのメリット、デメリットを知ろう。
4. ユニバーサルデザインの理想のもと介護保険・医療保険など社会基盤の整備・充実を図るように働きかけよう

消費科学連合会は、「すべての消費者が健全な消費生活を営めるよう、**科学的視点の下に消費者運動を推進**するとともに**消費科学（思考）の啓蒙**を行なう。」ことを目的としている団体で、今年で42周年を迎えました。

消費科学連合会は、**加盟団体数35団体、会員約6千人、全国通信調査員1,000人**を擁し、「消費者の利益を守る運動体」として組織されています。

温暖化と省エネルギー

温暖化が言われ、省エネが喧伝されている現状

くらしと電気

とはいえ、一時も電気と切り離せない私たちの暮らし

電気の種類

火力・水力・自然エネルギーによる発電と原発の違い

事故の怖さと事故率の違い

エネルギー源によるリスクの大きさと事故率の違い

情報入手手段

テレビ・新聞等による報道

各種事業体による広報・報道（広報）の姿勢

報道の信憑性

視聴率競争の報道・安全性吹聴の広報

信用供与は誰が？

信用を担保するものは？

設計・技術の安全性担保は誰が？

安全・安心の担保手段として国の役割

物差しのない現状

まとめ

設計・立地の段階および事故時における広報等に関しては国がもっと関与し、「公共性」を担保するシステムづくりを考えてほしい。

国民がもっとも知りたい安全性あるいは危険性を国の立場から即時にしっかりと事実を広報するシステムが確立されることこそが、一方通行の情報の垂れ流しの報道のあり方にも変化を与え、私たち一般生活者もそれなりに考え、理解した上でしっかりと取捨選択することができるのではないのでしょうか。

まとめ（続き）

責任の所在を明確にすることで、責任回避の立場からさまざまな規制をかけるのではないかという杞憂も当然考えられますが、そこにこそコミュニケーションという手段が効を奏するようになるのではないか。

コミュニケーションとは、世代、立場、情報の量的格差を超えて、議論しあうことで相互に理解納得し合える場を数多く持つことによって効を奏するものと考えます。

まとめ（おわり）

理解できる最大の要素は**シンプル**であること、**単純・適格な表現**がまずあるべきだと思います。その上で生じる**さまざまな疑問に丁寧にわかり易く解説**する，そうしたプロセスの上に乗ってはじめて**専門家集団と一般生活者とのコミュニケーションは成り立つもの**なのではないかと考えます。

ご静聴ありがとうございました。